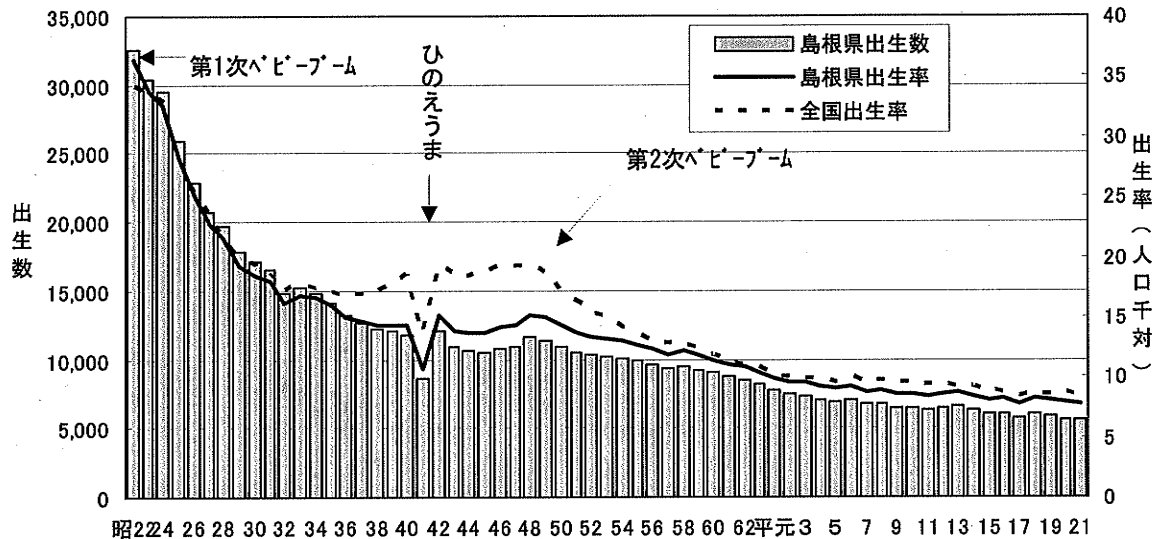


2 出生

(1) 出生数・出生率

平成21年の出生数は5,601人で、前年の5,685人から84人減少し、出生率（人口千対）は7.8（全国第34位）で、前年の7.9を0.1下回り、出生数は過去最低、出生率は平成17年に次いで2番目に低い値となった。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移



出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、15～19歳、20～24歳、45～49歳では前年より増加し、25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	19年-18年	20年-19年	21年-20年
総数	6,011	5,914	5,685	5,601	△ 97	△ 229	△ 84
～14歳	—	—	—	—	—	—	—
15～19	95	70	79	87	△ 25	9	8
20～24	796	791	682	687	△ 5	△ 109	5
25～29	2,015	1,971	1,807	1,769	△ 44	△ 164	△ 38
30～34	2,223	2,101	2,026	1,973	△ 122	△ 75	△ 53
35～39	766	852	976	968	86	124	△ 8
40～44	114	125	113	112	11	△ 12	△ 1
45～49	2	4	2	5	2	△ 2	3
50歳以上	—	—	—	—	—	—	—

出生順位別にみると、平成 21 年は第 2 子及び第 3 子以上は前年より減少したが、第 1 子は増加した（表 3）。

表 3 出生順位別にみた出生数の年次推移

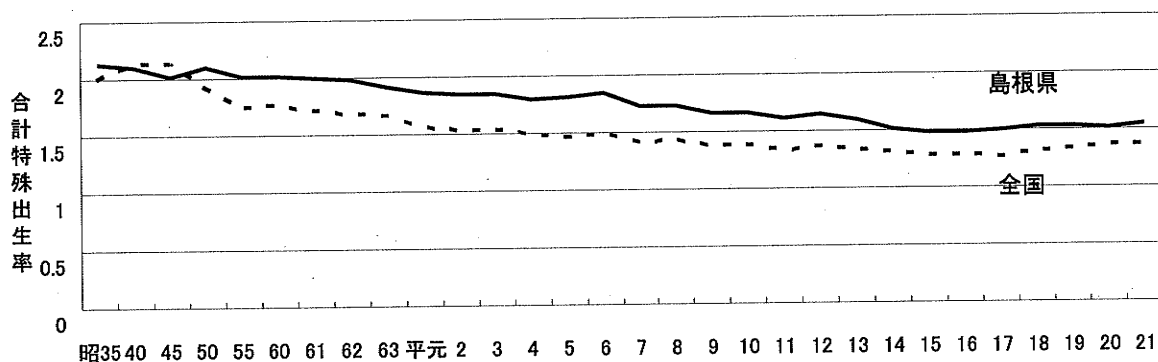
出生順位	出生数				対前年増減		
	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	19 年-18 年	20 年-19 年	21 年-20 年
総数	6,011	5,914	5,685	5,601	△ 97	△ 229	△ 84
第 1 子	2,646	2,576	2,351	2,373	△ 70	△ 225	22
第 2 子	2,226	2,211	2,130	2,095	△ 15	△ 81	△ 35
第 3 子以上	1,139	1,127	1,204	1,133	△ 12	77	△ 71

(2) 合計特殊出生率

平成 21 年の合計特殊出生率は 1.55 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県のほうが上回っており、順位は全国第 5 位である（図 2）。

なお、合計特殊出生率の算定の基礎となる年齢 5 歳階級別女子人口については、平成 17 年などの国勢調査年は日本人人口を、その他の年は総務省推計人口（総人口）を使用しているため、数値の比較においては注意を要する。

図 2 合計特殊出生率の年次推移



年齢（5 歳階級）別合計特殊出生率の昭和 45 年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね 20 歳代では低下傾向、30 歳代では上昇傾向にある。平成 21 年は 34 歳以下の各階級及び 45～49 歳において上昇し、35～39 歳、40～44 歳が低下した（図 3）。

図3 合計特殊出生率の年次推移【年齢階級別内訳】

